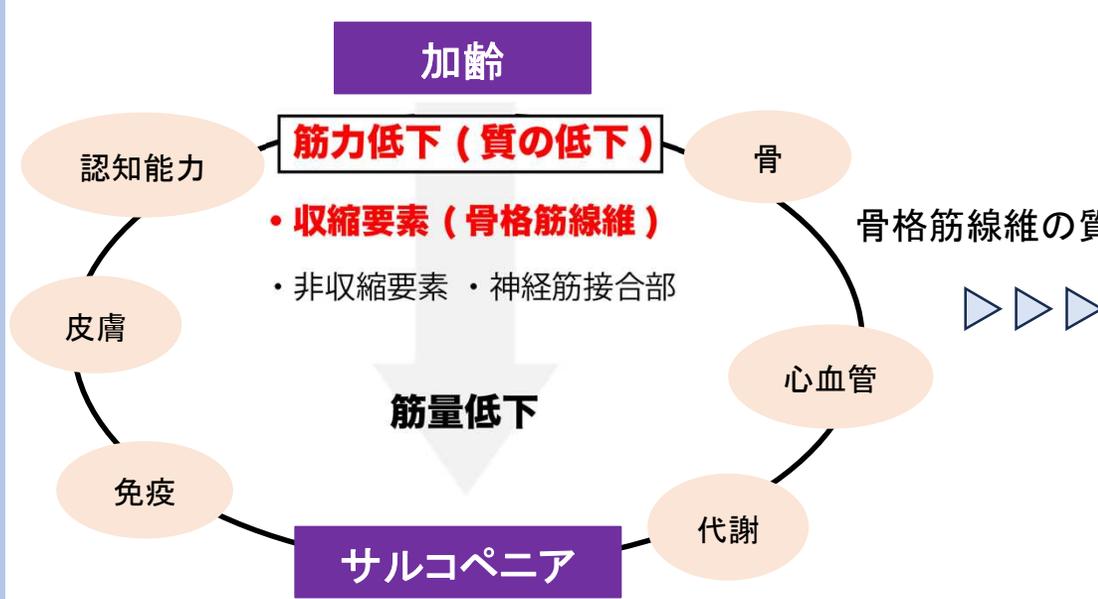


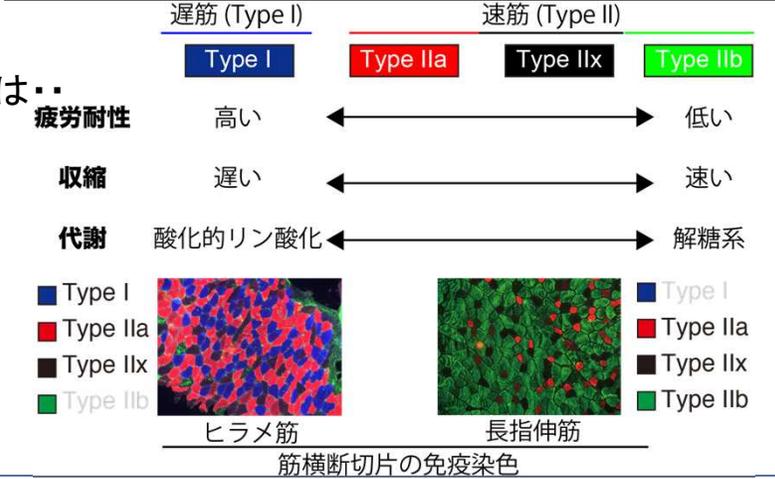
骨格筋の質的変化を中核とした抗老化方法の開発

(高橋 智/筑波大学、藤田 諒/筑波大学、矢作 直也/自治医科大学、村谷 匡史/筑波大学)

背景

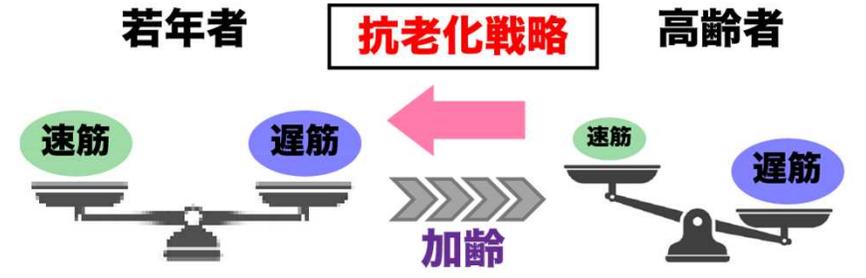


異なる収縮・代謝特性を持つ筋線維が存在する。この比率によって筋機能は変化する他、萎縮・肥大のしやすさ、糖尿病や遺伝子筋疾患の病態に影響を及ぼす可能性がある。



目的方法

我々が同定した世界初のType IIb 筋線維制御因子の発見を基盤として、筋線維タイプ決定因子を網羅し、骨格筋質的変化を介した抗老化方策の開発を目指す。



基礎的到達

- 異なる筋線維タイプが個体老化に及ぼす影響を明らかにする。
- ヒト骨格筋で異なる筋線維タイプを作り出す方法を開発する。

医療への展開

